

第6分科会



分科会テーマ

子どもの育ちを共に支える
～心に寄り添う家庭支援～

発表者 永見 有紀・原田 尚子 (かもめ幼稚園)
指導助言者 井上 菜穂 (鳥取大学学生支援センター准教授)
司会者 野坂 栄子 (かもめ幼稚園)
記録者 森上いづみ・内山ひかり (かもめ幼稚園)

1. 発表の概要

(1) 主題設定の理由

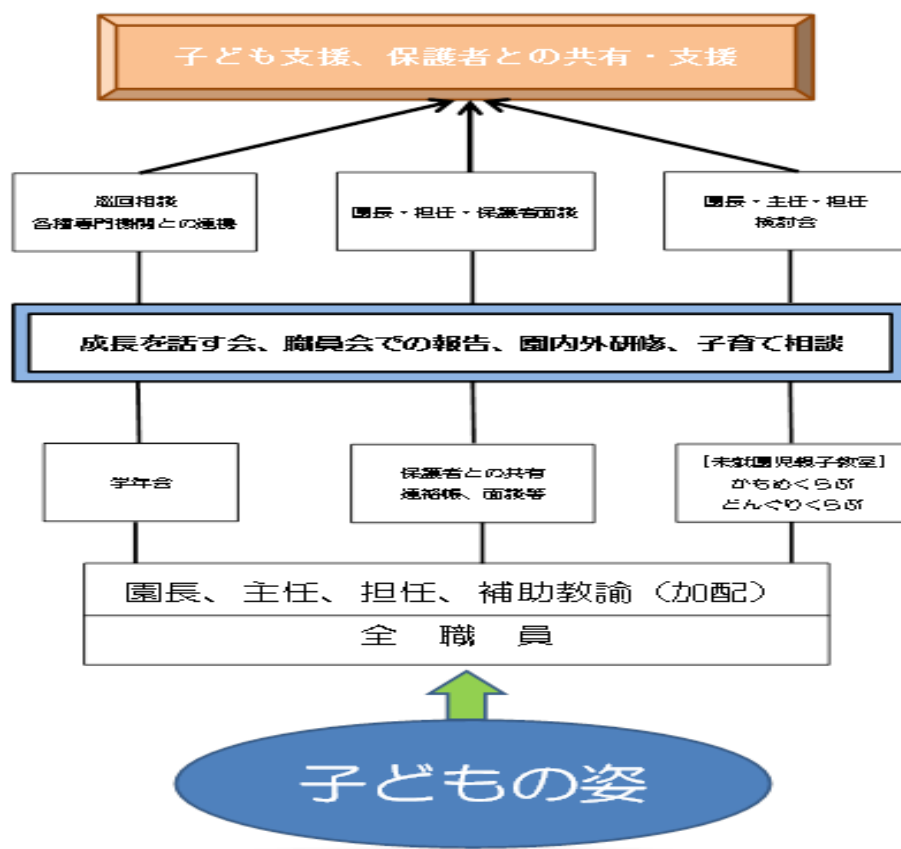
ここ近年、コミュニケーションが苦手、特別なこだわりがある、集団生活になじめないといった「気になる子ども」が以前より増えてきたように感じる。

本園では、「気になる子ども」一人ひとりへの理解を高め、その子どもが少しでも楽しく園生活を送ることができるよう「視覚支援」や「事前の工夫」などを実践し、日々努力をしているが、保護者と担任との連携が大変重要な課題となってくる。保護者の協力を得るためには「気になる部分」の共通理解が必要となるので、日々の生活の中で困り感の報告から始め、次第に信頼関係を築いていけるような働きかけを工夫していかなければならない。

また、“子育ての仕方が分からない”子どもと向きあえない“などの問題を心に持つ保護者もある為、保育者は保護者の心に寄り添いながら支援していく「子どもと共に保護者を支える」ことが幼稚園に求められることと考える。

この発表では、本園が行った「気になる子ども」とその保護者への支援のありかたについて、事例を通して具体的に考えてみたい。

(2) 取り組みについて



(3) 実践事例

I (保護者との連携) A男児

II (保護者との連携) B女児

(4) 考察

A男児

入園当初クラスや学年の活動に全く参加できなかったA児だが、一学期後半には、クラスのみならず同じ場所で過ごせるようになり、二学期半ばには、少しずつ参加し、楽しめるようになった。

母と協力し、園と家庭とで同じように接したり、環境を整えたりしていくことで、A児の好ましい行動が積み重なりやすくなったのではないかと考える。

母と協力 ⇒ A児の変化 ⇒ 母の気持ちが楽になる

B女児

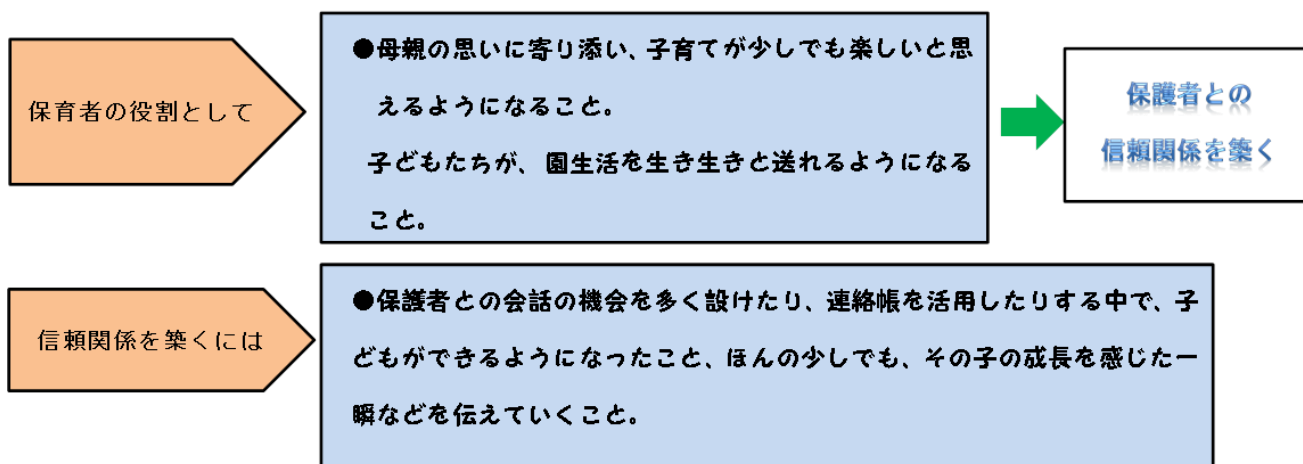
園での協力体制

- ① 出会い～入園してから保護者との関係の取り方
- ② 気づき～発達の偏りに気付いた時の伝え方 (受容、傾聴)
- ③ 把握・理解～背景の読み取り
原理に基づくアプローチ
担任・加配・親の情報共有



子どもが主体的に遊ぶ経験、成功体験
存在そのものを受け入れられる信頼関係

(5) まとめと課題



職員連携を更に強化し、保護者支援に繋がられるよう、具体的な方法を挙げ、検討していくことが今後の課題だと考える。

具体的方法

- ◆進級時の引き継ぎをスムーズにするために決まった書式を作成する。
- ◆職員研修・・・保護者支援のために、実践できる内容のもの

2、研究討議

(1) 発表内容に対する質疑応答

Q. 後ろの展示の視覚ツールについて、何歳児向けのものでしょうか？

A. 1週間の予定は、年長さんで、昨日、今日、明日などが意識できるようになった段階で使用している。

学年だからこれというわけではなく、クラスの状況や一人ひとりの子どもの状況を考えた、文字、イラスト、流れが分かるような漫画など、視覚ツールについては、子ども、歳、字状況に合わせて使用の仕方を工夫している。

Q. 職員連携…時間を作りたいけど作れずにいる。どういう時間を利用しているか？

A. バス待ちの件については、毎日ある終礼の時間を使って、何か困っていることなどを話す。ちょっとした掃除の時間も使いながら、情報共有している。

Q. 加配、主任、園長先生の関わりやアドバイスのタイミングを教えてください

A. 一人ひとり、子どもも家庭も違い、同じ診断名であっても、支援方法も違うため、その子どもに合ったタイミングを計っている。失敗してしまうこともあるが、それも学びとして次に繋げている。

Q. うまくいかなかった例も教えてください

A. 共有がうまくいっている例もあるが、うまくいかなかった例の方がたくさんあるかもしれない。例えば、協力を得る為の保護者との関係作りが進みつつあり、その子の望ましい姿は共感できていても、支援方法を理解してもらえないといった例がある。幼稚園はその子の姿を認め、事前の約束など工夫することで、達成感を得られるような支援だが、お母さんは厳しく注意や約束をし、良くない行動を止めるという考え方なため、「先生、もっとしっかり厳しくしてください」と言われ、理解がなかなか得られず、試行錯誤するといったこともある。

また、保護者がありのままの姿を受け入れられないといったこともある。気づいていても、否定したい、打ち消したい、隠したいと思っているケースも多い。担任はなんとか協力をえて、うまく進めたいと思うあまり、保護者に悪い所や課題、困っていることばかりを伝えがちになり、不信感や信頼感を失うこともある。そういった経験をしてきているが、まずは保護者の思いを全て受け止めること、またその姿勢を示すことが大事だと考えている。そして、専門機関の協力を仰ぐことも大事だが、それだけにとらわれず、幼稚園でできることは何かを考えることも大切である。日常の保育では、さまざまな視点から支援方法を学んで、実践できるような力をつけて、保育にあたること、保護者の方が心を開いたタイミングを見計らって、それまでの成長、これからの支援や見通しと一緒に考えることができるような支援のスキルを身に付けていきたいと考えている。

Q. 行事などについての配慮について、保護者との共有をしているか教えてください

A. 普段から、保護者の方と姿や配慮などの情報共有をしているのはもちろんだが、行事の前にあらかじめその日の予定や内容を詳しく話し、その子の苦手な場面、予想される姿などを伝えたり、支援方法を相談したりしている。そのなかで、家庭に協力してもらいたいこと、例えば、雰囲気慣れるように早めに登園してもらえることをお願いするなど、家庭と園とがそれぞれ事前にできる工夫について、話し合っている。

また、当日に調子が崩れ、楽しく参加できなくなった時の姿の予想やその時の対応方法についても、

相談しておくようにしている。

だが、行事は子どもの成長をより感じられる時であるため、保護者の方とは小さなステップの目標を共有し、達成し、喜び合えることを大切にするように心がけている。

Q. B児の親子登園について、メリットとデメリットを詳しく教えてください

A. 米子市立の児童発達支援センター中に、親子で登園するというのがあり、2、3名のグループ療育を行っている。

・メリット…先生が子どもに関わっている様子が見ることができ、遊びの時の関わりや声のかけ方を見て学ぶことができる。

・デメリット…個別の療育ではないため、それぞれの子どもに適切な遊びが提供されているわけではない。

3、指導助言

保護者支援に役立つカウンセリング技術

保護者の相談を受けるときの心構え

受容

安心感

▪ まずはとにかく話を聞く

①まずは、相談するための環境を整えよう

— 相談を受けやすい環境

②相談を受けるときのさまざまなコミュニケーションを意識しよう

- 心理学者のアルバート・メラビアン博士の研究
 - 話し手が聞き手に与える影響がどのような要素で形成されるか測定
 - 話し手の印象を決めるのは、「言葉以外の非言語的な要素で93%の印象が決まってしまう」
 - 視覚情報 (Visual) – 見た目・身だしなみ・しぐさ・表情・視線 …55%
 - 聴覚情報 (Vocal) – 声の質 (高低) ・速さ・大きさ・テンポ …38%
 - 言語情報 (Verbal) – 話す言葉そのものの意味 …7%
 - 話の内容はもちろん大切だが、話をする前から聞き手に対する印象が決まってしまうことに注意。

ワーク：リフレーミングを体験してみよう

- リフレーミングカードを使ってワークをしてみよう
- ワークシート
 - 自分の性格を書き出す (欠点) →リフレーミングして発表

うちの子、何でもあきっぽくて、何も続きません。

気持ちの切り替えが早くて、クラスの雰囲気をかえてくれると、先生もびっくり。